

令和6年度第2回東郷町地域福祉グランドデザイン策定委員会議事録

【開催日時】

令和7年3月27日（木）

開会 午後2時

閉会 午後3時30分

【開催場所】

役場2階 大会議室

【出席委員：15名】

- 委員長（福井県立大学 看護福祉学部 教授）
- 委員（愛知県立大学 教育福祉学部 教授）
- 委員（瀬戸保健所 健康支援課長）
- 委員（東名古屋東郷町医師会 代表）
- 委員（愛知県尾張福祉相談センター 次長兼地域福祉課長）
- 委員（東郷町社会福祉協議会 会長）
- 副委員長（東郷町民生委員児童委員協議会 会長）
- 委員（東郷町障がい者団体連絡会 会長）
- 委員（尾張東部権利擁護支援センター センター長）
- 委員（社会福祉法人東郷ひなた 理事長）
- 委員（NPO法人地域の応援団えがお 代表）
- 委員（東郷町駐在員会 会長）
- 委員（東郷町老人クラブ連合会 会長）
- 委員（愛知保護区保護司会東郷部会 部会長）
- 委員（公募委員）

【欠席委員：1名】

- 委員（東郷町子ども会育成会連絡協議会 会長）

【傍聴者：0名】

【報告】

- (1) アンケート調査及び団体ヒアリング調査の結果について（資料1～3）
- (2) ワークショップの実施結果について（資料4）
- (3) 今後のスケジュールについて（資料5）

【議題】

- (1) 第2次東郷町地域福祉グランドデザイン策定にあたって（資料6）

【会議の概要】

- 1 あいさつ
- 2 報告
- 3 議題
- 4 意見交換
- 5 その他

1 あいさつ

（委員長）

皆様、こんにちは。今日の委員会はアンケートとヒアリング結果についてです。これらは、非常に重要な住民参画になります。大きな考え方として、地域福祉の評価のポイントは3つあります。1つ目は、地域の人がどれだけ参加したかです。2つ目は、どれだけ連帯したか、いわゆるつながったかです。3つ目は、参加と連帯を通して課題が解決したかです。この3つの観点から評価していくことになります。アンケートは参加にあたります。貴重な意見ですので、よろしくお願いいたします。3つのポイントは社会福祉士の国家試験にも出る非常に重要な観点です。本日も忌憚のないご意見をいただければと思います。

2 報告

- (1) アンケート調査及び団体ヒアリング調査の結果について

（事務局）

<資料1～3に基づき説明>

- (2) ワークショップの実施結果について

（事務局）

<資料4に基づき説明>

- (3) ワークショップの実施結果について

（事務局）

<資料5に基づき説明>

3 議題

(1) 第2次東郷町地域福祉グランドデザイン策定にあたって

(事務局)

<資料6に基づき説明>

4 質疑・意見交換

(委員長)

ありがとうございました。意見交換に入ります。事務局からの説明に対して質問があればお願いします。意見交換では、第2次東郷町地域福祉グランドデザイン策定にあたっての意見や委員の皆様が日頃の活動の中から考えていることでも構いませんのでご発言をお願いします。

(委員)

アンケートについて、前回と比べて外国人住民に対する内容が多いと感じました。外国籍の住民の増加は近隣市町も含めて増加傾向にあります。新しく転入したときのごみの捨て方の周知の徹底など、伝えるのは最初しかないと思います。地域福祉計画で扱う問題ではないかもしれませんが、多文化共生の計画がない自治体では、地域福祉がその役割を担うと思います。改めてアンケートをみるとその点が新たな課題だと感じました。

住民向けアンケートの54、55ページについて、よく参加している地域活動で清掃活動がこれだけ多い自治体は見たことがなく、東郷町の特色だと思います。全体数が少ないので単純な比率だけで判断はできませんが、30代、40代の一番参加が少ない世代で防災やこども会の参加はよくありますが、東郷町では清掃活動の比率が高いことは、強みとして生かせる要素ではないかと思います。

(委員)

アンケート調査の結果を拝見し、地域のつながりの希薄化を感じました。地域の核となって地域づくりをしていく方の人材育成の必要性や課題が多いと感じています。地域のつながりが希薄化している中でどうしていくかが課題だと感じました。

保健所で相談を受けている中で、ひきこもりの方や精神保健上の課題を抱えている方が増えているように感じています。抱え込んでしまう人がいないように相談窓口の明確化や窓口の一本化、そこからつなげていくことが必要だと思います。

(委員)

1年半前にクリニックを開業しました。当クリニックは新しいこともあり、若い方が多く来院されます。そういった傾向からも感じる「分断」がアンケート調査結果からみられるように感じます。高齢者の方と若い方のつながりがあまりない、声

かけをしても若い方は来てくれない、若い方は顔がわからないから行けないなど、価値観や考え方、連絡の取り方などが違う人達を結びつけるのは容易ではないと感じます。

ボランティアの参加について、やってみたいが、時間が足りない、自分のことで精いっぱいという方に強いることはできません。知人に若い方で区長をされている方がいますが、負担が多いと聞いています。ボランティアの範囲を超えているのではないのでしょうか。今後どういう人達がどうリーダーシップをとるのでしょうか。

先日、ケアマネジャーとの会議で出た議題ですが、情報の壁というものがあります。個人情報について、役場で聞いても教えてもらえないことが多いので医療の分野でも困る部分があり、どこまでの情報であれば出せるのかなど検討していく必要があるかと思えます。

(委員)

概要版2ページの「わからない」が多いことと、12ページの支援を必要とする人の情報が得にくいということから取り残される人がいないようにすることが大切だと思えました。

アンケート調査の実施概要について、回収率は前回よりも全体としてあがっているという話がありましたが、回答していない6割の方はこういった方なのか教えていただきたいです。

(委員)

地域福祉を考える上で、地域のつながりが大事だと思いますが、地域のつながりは大変弱くなっていると感じています。以前区長をやっていたときは、組自体が区から抜けた地域があったり、地区の役が変わるときに後任者がいないといったことがありました。地域のつながりが弱いことで、地域や住んでいる方がどんな課題を持っているかつかめません。民生委員が地域に入ってさまざまな情報収集をしたり、社協でも生活支援コーディネーターが地域課題などを探したりしていますが、CSWなどの制度を設けて幅広く課題を探しに行く仕組みがあると良いと思いました。また、地域の専門職との距離をなくすことも大切だと思います。

アンケートを拝見し、驚いたのは社会福祉協議会の認知度が低いことです。これからは町の高齢者福祉大会などで社会福祉協議会や地域包括支援センターのPRをしていきますので、事務局でもPRをお願いしたいと思えます。

(委員)

民生委員がつながっているのは高齢者がメインになります。民生委員ごとのスキルの違いや、小さな地域ですが、地区ごとに温度差があるように感じます。それぞれに意見交換がしづらく、共通の課題も解決できないことから、今年度の4月以降、小学校区ごとに会合を催すこととしました。今年度の委員は、今年11月末をもつ

て終了し、12月から新規委員となりますので、共通の課題を把握しておかないと次の役員に引継ぎができないということをなくすためです。また、その会合は民生委員だけでなく、地区に関係する方や福祉に関する方にも声かけをして集まってもらいます。

また。高齢者福祉課から福祉に関わる方のミーティングに民生委員も参加してもらえないかと話をいただき、本日午前中に参加してきました。ぜひ参加し積極的に外の会議などに入っていき、情報を得てスキルアップをしていきたいと思います。

アンケートも参考になりましたので生かしていきたいと思います。

(委員長)

今委員から言っていたことは非常に重要で、今回の第2次東郷町地域福祉グランドデザインの中核事業になると思います。民生委員の地区にいろんな方が入ることで良い方向に発展すると感じました。全面的に核をつくりながら、小学校区域ごとの組織化の第一歩という話を聞きましたので明るい兆しが見えました。

(委員)

能登地震などの大地震で問題になっているのが障がい者の避難です。能登地震のときに、どこに避難すればいいかわからない、福祉避難所もないということを知りました。障がい者団体連絡会としては、令和7年度は、障がい者に対する防災を学びながら、障がい者が安心して生活できる体制を整えていきたいと思います。

今回のアンケートでも障がい者や一人暮らし高齢者へどう支援するかが重要なことだとわかりました。私の周囲にも若い方が増えてきましたが、対話をするところがありません。地域の支え合いをつくるというのは具体的にどうなのかと思います。今は、地域のことをあまり知らなくても十分生活ができていますので、単に地域で支え合いをしてくださいと言われても何をしたらいいかわかりません。地域活動と合わせて研究することが必要だと思います。目的意識や考えがまとまらないと地域づくりは難しいと考えます。ボランティアで健康サロンをしていますが、そういったランダムな形の組織の方が参加しやすいのではないかと思います。また、運動として、ショートテニスをやっていますが、こういった活動がつながり、支え合い、地域づくりにつながると考えます。東郷町で生まれて、住んで良かったと思える環境をつくれると良いと思っています。

(委員)

高齢者が多くなり、アンケートをみても70代、60代、50代が多いので支援の対象が一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯への支援の回答が多くなっていると考えます。実際にどう支援するかというときに、地域の見守りや声かけが重要になってくると考えます。先程、東郷町は清掃活動が多いという話がありましたが、東郷町には年に1回、清掃活動があり、区ごとに清掃をして清掃後にはお茶やお菓子を配

ったりします。年に1回ですが、同じ区の人と顔を合わせる機会があることで区長・組長の役割は大変ですが、周りにどういった人が住んでいるかわかったり、つながりができたりします。イベントやお祭りなどは若い人の参加もあり、イベントなどに参加した若い人が年代を経て、自分達にしてもらったことを何かの形で返せないかという気持ちがゆるやかなつながりの中でできてくると思います。ゆるやかなつながりが紡がれていく仕掛けやイベントを続けていくことも大事だと思いました。

(委員)

下水道が整備されてから、地域で掃除するということが希薄になっています。活動があっても参加しないなど、地域の差があると思いました。

アンケートでは、あなたは幸せですかという設問がありますが、何をもって幸せと言っているのか気になりました。私は障がいを持つ子どもの親です。災害時などを含めて、弱者が暮らしやすい環境が誰もが暮らしやすい環境です。災害については、以前から話があるもののなかなか整備されていないです。災害が発生したときに、障がいを持った子どもはどうなるのだろうと思います。

(委員)

高齢者の支援をするときは、民生委員がつなげてくださることが多いですが、ケアマネが忙しく民生委員から情報を得られなかったり、ケアマネが入ることで民生委員の介入がなくなったり、ずっと支援をしていた方がいなくなり、ケアマネに聞いたら施設に入ったと後から聞いたりなど情報提供や共有のルールが決まっていないことで上手く連携ができないことが多いです。

高齢者夫婦でも両者ともに認知症ということも増えています。認知症の高齢者の方を支えるのは介護保険だけでは厳しいです。認知症の施策は国からの方針で本人の意見を聞いて支援を決めていくことになっています。認知症の家族の方は、デイサービスや施設に行つてほしいと思つていますが、認知症本人からは、住み慣れた自分の家にいたいし、デイサービスでお世話になるのではなくボランティアをしたいといった相談を受けることが多くなりました。どんな人でもボランティアができる仕組みを考えていけると良いと思います。

(委員)

地区の活動をやっていますが、70歳まで働く方が増えて、地区の役を担ってくれる方を探すのが大変です。

概要版9ページに公共交通サービスの充実が64.3%とありますが、交通弱者をどうするかがこれからの問題点になると思います。

(委員長)

ワンコインで移動支援をやっている地区もあります。公共交通機関ではなく、住

民ベースでの移動支援も考えられます。

(委員)

資料4のワークショップの内容の中に③50代の長年のひきこもりの息子と共に過ごす高齢の母親、④ひきこもりの息子と共依存状態の80代の父親と同じようなテーマがあります。ひきこもりの方が今後増えていくとは思いますが、高齢者でもなく、障がい者でもないのにどうして福祉の対象、課題になるのか疑問に思います。

(委員長)

ひきこもりは、何もないわけではなく必要な支援につながっていないだけであることが多く、怠けているわけではないです。地域の中でもそのように思っている方は多く、理解が進んでいないということもあると思います。

(委員)

第2次東郷町地域福祉グランドデザインの中に再犯防止を取り入れていただきありがとうございます。

自殺対策について、自殺という表現をあえて使わないという風潮もあります。東郷町では、自殺ではなく自死という言葉を使っても良いのではないのでしょうか。

アンケートの中で犯罪をした人の立ち直りに協力したいかについて、そう思わないと回答した方が多くなっていました。内訳をみると若い方の回答が多くなっていきます。立ち直りを支援するには社会の理解が不可欠です。交通違反も犯罪になりますが、軽微な犯罪ということで、罰金で済みます。犯罪者は懲役など何かしらの罰を受けます。罰を受け終わった人はその罪を償ったことになるはずですが、今後は、もっと働きかけができる保護司が増えると良いと思います。今年1月の小倉市のマクドナルドでの殺傷事件、長野市駅前の無作為殺人事件のどちらも犯人はひきこもりでした。ワークショップのテーマにもありました8050問題から事件に発展していることもあります。その方々のすき間を埋めていただきたいと思います。

(委員)

子育て中の母親、親支援をしている団体の代表、自治会の役員をしてきた3つの立場から子どもへの福祉があまりないと感じています。もう少し踏み込んでもいいと思います。

ひきこもりについて、アンケートでは誰もがなる可能性があるという回答割合が高いですが、そこへの支援がないと思います。また、不登校への支援もあまりないということが気になりました。不登校から始まってひきこもりになる方は多いと思います。ひきこもりになる前の不登校の状態では支援があると良いと思いました。

地域のリーダーが不足しているという課題がありますが、子育て中だからこそ児童館や自治会など地域に関わるが増えました。地域に支えてもらったというき

っかけができた人を地域に引き込み、ボランティアや声かけができるようになると良いかと思えます。ただ、子育て世帯なので報酬があれば、子育てを終えたら再就職だけでなく、パートをしながら地域活動をするという両輪ができるようになると思えます。

(委員長)

それぞれの立場から貴重なご意見をありがとうございます。事務局から何か答えられることがあれば回答をお願いします。

(事務局)

さまざまなご意見ありがとうございました。最近のトピックとしてお伝えさせていただきます。3月号の広報で福祉課の中にひきこもり専用の相談窓口を開設したことを特集記事として掲載しました。以前から相談があれば福祉課で受けていましたが、新たにひきこもり相談窓口「トモニ」という名称をつけて相談先を明確化しました。ひきこもりの相談は増加傾向にあり、就職に関する相談が多いです。就職に関する相談について福祉課では、4月から就職支援を行っています。家から出られない状況の方は親が悩まれているケースが多く、親が集まる家族の会を月に1回開催しています。家族の会は好評で、人口規模に対して多くの方に来ていただいています。現在はひきこもり支援について力を入れて進めている状況です。

地域のつながりの希薄や不登校への支援についてご意見をいただきました。町では、重層的支援体制整備事業を進めていく予定です。令和6年度、7年度が準備期間、令和8年度実施というところで、地域づくりを社協と一緒に進めていく予定であり、計画にも盛り込んでいきます。また、不登校の支援はSSWやCSWの連携を図ることができると良いと思えます。

アンケートに回答していない6割の方の属性や設問中の幸せの内容は把握、定義づけしていないため、回答できかねます。

事務局からは以上です。

(委員長)

その他に会議全体を通して何かありますか。次回以降もご意見をいただきたいと考えています。それでは、本日の議題は終了しましたので事務局にお返しします。皆様におかれましては、議事進行にご協力いただきありがとうございました。

6 その他（事務局からの連絡事項）

次回の委員会は、令和7年6月23日（月）13:00を予定しております。次回の委員会では、第2次東郷町地域福祉グランドデザインの内容についてご意見をいた

だきながら進めていきたいと思ひます。お忙しいと思ひますが日程調整をしていただき、次回もご出席・ご協力よろしくお願ひいたします。また、会の代表者が変わる場合は、引継ぎをお願ひします。机上の次回会議の出席確認表にご記入いただきご提出をお願ひします。会議の1か月前を目途に再度ご連絡をさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。

閉 会